

下関北九州道路整備促進大会

平成27年7月24日(金)北九州市において、官民が一体となった「下関北九州道路整備促進大会」が開催され、当連合会関門連携委員会から福田委員長をはじめ10名が参加した。



この大会は、関門海峡を結ぶ新たな下関北九州道路の早期建設を求めるもので、山口県・福岡県・下関市・北九州市の2県2市などで行く「下関北九州道路整備促進期成同盟会」、民間主体の「下関北九州道路建設促進協議会」、「中国経済連合会・九州経済連合会関門連携委員会」の三者共催で行われ、約220名が参加した。

村岡山口県知事らの主催者挨拶に続き、経済界を代表して当連合会の副会長である福田関門連携委員会委員長が意見提言を述べた。この中で福田委員長は、関門トンネル・関門橋が本州と九州

を結ぶ大動脈としての役割にとどまらず、「産業・経済・文化」とあらゆる面において結びつきが強い下関市地区と北九州地区の人々の暮らしになくはないものであることを指摘し、下関北九州道路の建設による「幹線道路の慢性的な交通混雑の緩和」や「移動時間の短縮」における経済効果の試算結果などを示しながら、経済面からみた新ルート建設の必要性を訴えた。

大会は、下関北九州道路の早期実現に向けた調査を国に求める決議を採択して閉会した。

(担当：水本)

決 議

関門地域(下関市・北九州市)は、古くから対岸の両地域が密接につながり、産業、経済、文化など、様々な面で緊密に交流・連携し、都市圏が形成されてきた。また、ヒトやモノが活発に行き交う要衝の地として今日まで栄えてきている。

近年は、我が国の自動車をはじめとする産業・経済をリードする地域として、また、成長著しい東アジアのゲートウェイとしての役割も期待されている。

「人口急減・超高齢化」が地方において深刻な中、このような関門地域の強みや特色を活かした個性あふれる地方の創生を推進し、地域の自立的発展を図っていくためには、地域間の交流・連携をより一層深化させ、活力ある地域形成や豊かな生活環境の創出が重要である。

そのためには、企業の活性化や観光の振興など、地域経済を支える基盤となる道路網の充実・強化によるストック効果を発揮させることが急務である。

また、「強さ」と「しなやかさ」を持った安全・安心な国土・地域・経済社会の構築に向けた「国土強靱化」の推進において、広域的、狭域的な視点から大規模災害時にも機能する、信頼性の高いネットワークの構築が強く求められている。

しかしながら、下関市と北九州市をつなぐ関門橋は供用開始から41年、関門トンネルは57年が経過しており、近年、施設の老朽化に伴う補修工事や、悪天候、事故の発生による通行制限が頻繁に行われている。このため、関門地域における安定的な交通機能の確保、ひいては本州と九州の連絡強化が喫緊の課題となっている。

こうした地域のニーズや喫緊の課題に的確に応えていくためには、「下関北九州道路」を早期に整備し、関門橋や関門トンネルと一体となって環状道路網を形成することにより多重性を確保するとともに、大規模災害時における代替性を確保することが必要不可欠である。

このため、我々は、本会の総意に基づき、下記の事項について、強く要望する。

記

- 1 下関北九州道路の早期実現を図ること
- 2 実現に向けて、必要な調査を実施するとともに、具体的な方策の検討を進めること
- 3 これらの調査・検討に必要な予算を確保すること

以上、決議する。

平成27年7月24日

下関北九州道路整備促進期成同盟会

下関北九州道路建設促進協議会

中国経済連合会・(一社)九州経済連合会関門連携委員会